

第3回 都市計画マスタープラン専門部会 会議録

1. 日時 平成22年3月25日(金) 9時30分～11時30分

2. 場所 生駒市役所4階 401会議室

3. 出席者

(委員) 田中部会長、松村副部会長

今井委員、城山委員、戸川委員、荒井委員、筋原委員

(事務局) 森本次長、林課長補佐、谷係長、

川口主査(以上、都市計画課)

山口、市川(以上、パシフィックコンサルタンツ株式会社)

4. 欠席者

池本委員

5. 会議公開 公開

6. 傍聴者数 2名

7. 議事内容

部会長：皆さんおはようございます。本日は第3回目の専門部会ということで、前回に引き続き、基本となる将来像と目標について進めていきたいと考えている。

案件として、(1)生駒市の将来像と目標についてとなっているが、第5次総合計画の方がまとまってきたということで、事務局のほうから説明をしていただきたい。また、前回の部会で人口について質問があったので、人口構成などについても説明していただきたいと思う。それでは、事務局の方、よろしく申し上げます。

事務局説明

部会長：今回の議論については、まとめられたキーワードのなかで、まだ欠けている点があればご指摘いただきたい。また、今後目標というかキャッチフレーズみたいなものをつくっていただくが、いろいろなキーワードのなかで特に重視してやっていくべきではないかというようなことについて考えていただきたい。そういった観点で議論していただきたい。まずは、ここの部分は抜けているとか、この言葉使いよりはこちらの方が良いのではないかとといったご意見からお伺いしたい。

副部長：キーワード的には網羅されていると思うが、気になるのはデータが人口しかなく、これだけに基づいて議論するのはちょっとこわいと思う。私の専門である交通でいうと、発生場所、目的地のデータが全然なく、パーソントリップ調査がこれまで積み上げられてきて、来年度大規模な調査が行われる。都市間流動の実態が詳細に把握されると思う。そのデータがなく判断が難しいと思う。例えば、「日々の暮らしを歩いて暮らせるまちにする」には異論はないが、これを生駒でやろうとすると、かなり大変だろうと思う。生駒の真ん中まで歩いて来いというのはかなり難しい話である。それとバスがそれほど頻繁にあるかということも厳しい話である。それとニュータウンのなかのまちなかに住まわれている方も、日々の買い物をそこでしっかりするというのも多分難しい現状があるのではないかと思う。とすると、キャッチフレーズではなんら問題はないが、これを生駒で本当にやろうと思うと、生駒のまちをどういう形にするかということからあげていかないと“むずかしい”と思う。その難しいということがデータの的に共有されないと宙に浮いた議論にならないかと危惧している。このキーワードも多分いろいろなところの都市計画マスタープランをつなぎあわせればこういう文章になると思うが、じゃあこれは生駒で本当にできるのかとか、どれだけ必要だとかというようなところを、データで押さえるとともに、地元の方々のいろいろな意見というものが出てこないで、ちょっとこのメンバーだけで決めていくのはこわいと思った。そのあたりの事務局のお考えはどうか。

事務局：“日々の暮らしを歩いて暮らせる”というのは、生駒市が南北に長く、そのエリア、エリアを核として、生駒駅まで全部歩いてくるというイメージではない。北では日常の買い物ができるような核があったり、南にもそのような核があったり、日常生活はそこで歩いて暮らせるまちであつたら良いという思いである。

副部長：私もそれで良いと思うが、それはかなり難しい状況になっていると思う。というのは、多分パーソントリップ調査でデータをとると、今の住んでおられる方々は市外の大規模ショッピングセンターまで車で行かれたり、日常の買い物ですら車で行かれたりというような現状であるのではないかと思う。そうした時に大きく方針を転換していこうと思うと、これは商業の話でもあるし、都市計画マスタープランだけで議論は多分できないだろうと思う。通勤の話でもそうですし、そのあたりの流動の話がない状況なので、どっちを向いて生駒市全体として流動しているのかという全体像をもう少しつかんでくると、ここの「行政の考えるまちづくり」であつたり、「専門部会の意見」とかいうところで“これ難しいね”とか、“でも大切だからがんばらないといけないよね”とか、そういうところの議論が必要になってくるのではないかと思う。多分、そういうデータはお持ちだと思う。パーソントリップのサンプリング調査はいろいろな部署で集計されていると思うので、それに基づいた計画というのがこれまでもつくられてきたと信じている。

事務局：パーソントリップの調査をやられるのは聞いている。前回パーソントリップ調査

の流動とかや、北でも第二工区の調査もやられているものがあるので、当然データの整理もしないといけないと思っている。高齢社会のなかでは当然交通手段の問題が大切で、幸い生駒市では主要な電車が通っており、北には奈良線、けいはんな線、南には王寺線があり、公共交通を中心に駅を核とした生活圏の核的な部分をご議論いただけないかなと思っている。これまでは道路を中心に議論されてきたが、高齢化に備えたなかでできるだけマイカー抑制がとれるような方向性を考えていきたいとの思いがある。果たしてどうかと言われたら難しいところがある。都市計画マスタープランでは生駒駅を中心に広域核をおさえており、その他各駅周辺の生活拠点的な考え方をご議論いただきたいと思っている。データは交通ネットワークに関する収集をしたいと考えている。今回は目標のキーワード的なものを出させていただいている。今後、交通のデータを収集しながらご議論いただきたいと思っている、

部会長：次回に資料が出せるものがあれば出していただきたい。

事務局：パーソントリップ調査については調べてみる。

事務局：言葉足らずのところ部分があるが、“歩いて暮らせるまち”とはいうのは全国的に推進されようという方向のなかで、生駒市として全市的にすべてがそういうようになるという厳しさはあると思う。おそらくパーソントリップ調査の推計をしたときに、なかなかそうにはならないという実態が結果として出てくる部分もあるかと思う。言いたいイメージの一つは、前回の資料でも提示したが、鉄道の利便性が比較的高いということと、違いはあるが鉄道駅周辺で都市機能の集積が図られてきている。今の交通の利便性ということと、都市機能の集積といった今のストックを活かしながら、まちを元気にしていくというようなことを考えたときに、駅周辺の賑わいをもっと育てていくというようなことが必要である。そうなったときに、やはり駅周辺で賑わいがある環境があって、公共交通の利便性も高いので、過度に自家用車に依存しなくても、様々な日常生活に必要なサービスとかが享受できるような暮らし方みたいなものをもっと推進できないかなということが一つ。もう一つは日常的に歩ける範囲の身近な魅力を、魅力ある環境をもっと育てていく、そういった意味での“歩いて暮らせる”いわゆる身近な空間を、身近な環境を歩きたくなるような緑化であるとか、公園とか交流空間とかを含めて、身近な環境の魅力化を進めていくなかで、歩ける範囲のなかに、様々な魅力があって自分たちの地域に愛着とか誇りが持てるようなまちづくりができないかなという部分があって、そういった様々な考え方を“歩いて暮らせるまち”のなかに盛り込んでいく部分もあって、少し分かりにくい部分があったかなという気がするが、そういった思いが含まれているということである。

副部会長：東京の方で一年早くパーソントリップ調査が行われた。そこでの調査結果の速報が昨年11月に出ている。それをみると高齢者のトリップ数が増えている。65歳以上の方々の1日に外出する機会が増えたということである。それがこれまでとは大きく違っている。これがそのまま京阪神でははまるかどうかは分からないが、高齢社会

が到来し交通需要が減っていくだろうという予測はたてられているが、ただし、それほど減らないかも知れないという議論である。ということは逆にいうと、高齢者の方々が何か活動したいという思いがあって発生したトリップというのをどういうところで吸収するのか、それにどういう手段で移動してもらうのか等々も考えていかないと将来の計画をつくるときに見誤る可能性があると思った。数字が全てではないが、一応数字も押さえておくと、その地域での暮らし方というのが、今おっしゃっていただいた形で、本当の日常の話とそれからもう少し一週間ぐらいの単位のなかで、動き回るような暮らし方とかの生活像とうまくリンクしてマスタープランがたてられると、このキーワードの重みが出てくると思う。

部会長：今お話を伺っているとキーワードに公共交通の言葉が入っていない。“公共交通を活かしたまち”とか、そういうことを入れておくと、もっと活性化するとかいう話が盛り込まれるのではないかと思う。後のところは今後考えていただきたい。

委員：前回意見の減災を反映していただいて有り難うございます。この表自体良くできていると思う。ただ視点として一言だけ言うと、“協働のまち”というのは横串でなく縦串で全てに関わってくることなので、次のステップで細かな施策を考えていく段階では協働の方法、参画と協働の方法として、各取り組みに対してどういうことが考えられるか、ということをご検討いただければと思う。当然そのなかでは、行政と住民の協働、地域協働自治ということで住民たちが中心となってやって、行政は側面支援だけをする、ということの色分けをきっちりしていけば、より中身の濃い計画となると思う。例えば、“歴史文化遺産を活用したまちづくり”というところで、住民の協働の作業のなかでかなりの気運ができてくると思う。一方で“拠点を連携する交通ネットワークの形成”の部分では、鉄道事業者とか、バス会社とかにいろいろ提案をいただくという部分を期待するようなどころも必要ではないかと思う。とは言っても、鉄道は事業者だけかというところではなくて、行政や住民も関わってくるところが多く、例えば神戸市では、駅周辺の駐輪対策がかなりNPOの仕事になっていて、彼らの固定的な収益源となっている。そういう形でのNPOの参画は当然ある。一方、鉄道事業者は“歩いて暮らせるまち”に関連して、自転車を電車に乗せても良いとか、駅回りで電気自動車や電気自転車のシェアリングとかの事業と一緒に考えていただくとか、それぞれの立場でいろいろなことを考えていただく必要がある。一方の人だけがやれば良いというのではないということで、参画と協働のまちづくりという視点から施策を切り込んでいってもらえれば、より良いものになるのではないかと思う。それと副部会長からの意見にもあったが、“歩いて暮らせるまち”というところで、いただいている情報が高齢化のマップだけなので買い物圏というところで具体的な行動がどうなのかという部分の情報がないと次の議論ができないのかと思う。生駒市に住んでいないものとして生駒市をイメージするのは、それぞれの駅毎に生活圏をつくって拠点性をもった中心市街地が真ん中にあるということである。本当にそういう行動な

のか、もう少し具体的な情報をいただけたらというのが希望である。

部会長：今のご意見に対して事務局のお考えはどうか。

事務局：市民アンケートのなかでも“歩いて暮らせるまち”というようになっているので、それに対する方策というのは、目標が定まってくればそれに向けての実現方策をご議論いただくことになる。交通量に関するマネジメント調査もあるかどうか分からないが、これも踏まえながら、データ収集を図り、目標がそういう形になれば、その実現方策を考えていきたいと思っている。

部会長：資料があれば、商業系の集積がどうなっているかと、他都市のデータのなかでもニュータウンの商業施設がかなりだめになっていて一つの大きな問題となっている。生駒市はどうかということも次回にでも説明いただけたらと思う。

事務局：商業施設の配置とかいろいろなデータがあろうかと思うので、そのあたりは検討させていただきたい。それが目標ということになれば実現方策を考えていく。おっしゃるとおり高齢化と市民アンケート結果しかないのも、どのように進めるかはご相談させていただきたい。

部会長：先程事務局から説明があったが、総合計画では市民がつくるとか市民主体とかと言う言葉がいっぱい出ているが、キーワードの全体のなかで市民とか、事業者を含めた協働の施策について検討させていただきたい。

事務局：市では4月1日に市民基本自治条例を施行するので、総合計画であげている協働については大きなキーワードの一つの柱となってくると思う。他の分野でも協働というのは出てくると思う。

部会長：前回、現状の住民活動の実態があれば良いとの話があったが、まだ調査中で今回はまだ間に合わないということなので次回にお願いしたい。

事務局：まだ途中で皆さんにお配りできるような資料はできていないが、時間があれば、中間報告はさせていただく。

委員：4月から市民基本自治条例が施行される。一つの自治会ではなく校区毎の自治会で何か取り組もうということであるが、校区で括ったら誰が委員長になるのか、目標は何か、という話になってくると思う。先日土木部長とも話をしたが、当然予算もいることになるが、自分たちでできることは自分たちでしようやないかということで、材料資金だけ頂戴と。当然、特殊な技術がいる分については無理だが、地域で草刈りをしようやないかと、せいぜい燃料代だけでも出してくださいと。田舎の方に行ったら舗装されていない道がある。舗装だけしたいと、機械とリースだけでしてもらえないかと、その時に市の職員を付けて指導してもらえないかというような形をやっていくことによって協働のまちづくりができるじゃないかと思う。高齢化が進んでいって生産年齢人口も減ってくるだろう。資料の数値をみていると、税収も少なくなるだろう。入札で業者にしてもらおうのではなく、自分たちでできることは自分たちでしたらどうだということになる。私の自治会なんか車が離合できない。もっと狭かった。だいた

い五尺、1m50 cm。一番広いところで2m40 cm。なんでそうなっているかという牛車
が離合できる範囲だった。モータリゼーションで車が増えてきたので、自分らで道を
広げようということで、農業やっている方も、勤めている方もおられたが、勤めてい
る方は有休として無償で、トロッコを段取りして全部自分らでやった。今は税金を払
っているから行政が全部やれという時代ではないと思う。だからそういう方向で考え
ていったらどうかといった話を自治会担当の市民活動推進課と土木部長とそこまで話
をした。当然今後そういうことをやっていかないと行政はもたないと。冗談だが、夕
張市を一度見学に行かしてほしいとお願いした。夕張市では自治会の振興補助費はお
そらく出ていないだろうと思う。夕張市と比較してはいけませんが、やはり今後ああい
う時代がくるだろうと思う。生駒市になって人口が急激に増えて税金が入ってきたが、
今後は、もうそんなことはないだろうと思う。生駒市は坂が多い。坂を広げようとす
るのは土台無理な話である。結局それであれば高齢者が歩きやすいような手摺りを付
けるとか、そういうようなことをやっていかないとだめだろうと思う。私の持論だが、
生駒町の時代に戻ったら良い。全部自分らでやったというような意識をもたないとだ
めだろうと思う。ボランティアが一つの流行語になっているが、日本人はわりかしボ
ランティアをやらない。アメリカなんかドネーション（寄付行為）をしてくれるが、
日本人にはドネーションという意識が根付いていない。今後そういうこともやってい
かないと財政的にもたないと思う。

部会長：非常に貴重なご意見を伺いました。住民の活動をどのように支援するかはいろい
ろなやり方がある、NPOをつくるとか住民独自の活動を支援することもある。地
域のまちづくりを自分たちの力で少しずつやっていくと、まちをつくる以上にコミュ
ニティがつくられたり、深まるといった利点もある。いろいろな意味でそういう活動
を支援することが必要である。

委 員：資料にあるように、“地域のコミュニティづくり”というのがある。昔は 35 軒し
かなかったが、今は 200 軒を超えている。新住民と旧住民をどう融和させるかとい
うことを常に考えて、大きなイベントを 2 回やっている。イベントで顔を合したら言
葉を交わすから、うち解けてくると思う。そういう考えでやっていかないと。生駒市
には 124 の自治会があるが、東、西、南、北、中と 5 つのゾーンにわかれている。市
民基本自治条例は、本格的に動き出すまでは校区毎にやっていかないといけない。他
の市町村を視察に行ったが、根付くまでに 5 年くらいかかるとの話である。

部会長：一部では、全国的に自治会に入る人が減っているといった問題もあると思う。都
市計画の部門だけで解決する問題ではないが、他との連携をとりながらやっていかな
ければならないと思う。

委 員：キーワードは抽象化されたものとなっており、共通のイメージがあると思ってい
る。例えば生駒らしい景観とか、住宅ブランドの高いまちとか、具体イメージが共通
化されているのかそのあたりが良く分からないし、それぞれイメージが違うのかと思

う。そういう視点でみていくと、賑わいと個性というのもよく分からないという感じがする。都市計画のなかでは協働というのが一般的だと思うが、初めてふれたときに協働とはどういう意味かわからなく単語としてどうかと思う。また、交通面でみると、二次交通が一番問題である。鉄道で来ていただいて、そこからバス・自転車をどう繋いでいくのかという話があって、そのあたりは地元と一緒に考えていかなければと思う。鉄道事業者としてはそのあたりを十分認識している。

部会長：先程から公共交通の話が出ていて、前回の意見のなかで、生駒市の良いところは教育面と交通環境が一つの特色だと思う。その特色を今まで気が付かないというか活かされていない部分があって、都市計画のなかでどうやっていけるのかという部分がある。

事務局：“日々の暮らしを歩ける”という意味で、鉄道軸が都市軸になると思う。その駅周辺の各拠点が骨格になると思う。道路が主体というイメージでなく、鉄道が主体になると思っている。

部会長：都市計画はどうしてもハード的なつくっていく面が強いが、ある面ソフト的な選択もどう展開していくかというのが課題である。また資料とか事例とかあれば出していきたい。

委員：“日々の暮らしを歩いて”ということで先程から話がでていますが、私のところではバスも利用しやすいし、電車も大変便利である。東生駒三丁目、四丁目、さつき台になってくると、バスに頼らざるを得ない地域になっているがバスの本数が少なく不便である。バスの路線は小瀬まで伸びたが萩の台まで足を伸ばそうとしてもそのバスでは行けず、もう少し伸びてくれたらと思う。公共交通機関ではバスは少し不便かと思う。東生駒三丁目、四丁目は優れた住宅地として形成されているだけに商業施設が全然なく、ちょっとした買い物に行くのも不便だと聞いたことがある。かといってあそこにお店がくる可能性については難しくこれが現実かと思う。萩の台にも駅前にキンショーがあったがなくなってしまった。住んでおられる方が大変不便だと言っていた。車で移動しないと不便だから車で移動するが、道が混んでいて益々バスの便も悪くしている。高齢者の方で運転される方もいるので、なかなかバスに足が向かない面もある。バスをうまく利用して日々の暮らしが自動車に頼らなくて過ごせるまちになれば大変有り難いと感じている。それと安全・安心で感じたのは、若い人たちのための子宮癌予防などの高価なワクチンが、自治体によっては全額負担しているところもあると聞いている。生駒市でも若い人たちや子ども達の安全性を確保するような対策をとっていく計画をもたれば、より若い人に安心な住宅地、居住地として認識されるような要素が出来てくると思う。

部会長：医療については別の分野になるが、自動車に頼らないまちという話があって、公共交通の便利なまちというのと、反転して自動車に頼らないまちというのは持続可能な都市をつくるためにも一つの方式というか、あちこちで事例もある。そういう観点

もここに入れてはどうかと思う。バスは自由化されて経営も厳しくなり、路線もなくなってしまったりして、最近買い物難民というのも話題になっている。まちづくりのなかでバスをどう活用していくのかということも、他の自治体の事例で紹介していただきたい。

事務局：バス交通については民営をどうするのかと、人の公共交通をどう考えていくのかという視点があると思う。市としては、駅を軸としたなかでコミュニティバス、公共交通に関する検討委員会を立ち上げて議論していただいている状況である。委員会の議論が進むなかでそのあたりの資料が出てくると思う。

委員：マニュアルが具体的に絞られてきて良いマニュアルだと思う。先程ご指摘いただいた不足する点、補足する点について言うと、やはり都市機能、先程から話題になっている利便性を10年後も持続できるという形でもっていくというのは大事なことから特に重視する項目に追加したほうが良い。私が住んでいるところは現在高齢化率が40%を超えている状態で、今の状態でいくと、治安が悪くなったり、まちが怖くなってしまふ。だから住み替えが大事になってくる。公的機関として社団法人の住み替え機構というのがあるが、最近は動いていないようである。提案したいのは住み替えについて、高齢者の住んでいるところは家が広く、子育て中の世帯は家が狭く、ミスマッチになっている。高齢者の移住をスムーズにするために、税制面で考えたらどうかと思う。それから自然環境について追加していただきたいのは都市機能と緑、自然との共存である。現実に市役所から歩いて5分のところに旧ジャスコがあり、その向こうの小高い丘には緑があったが、そこにマンションが建った。南のインターの近くに緑の空間があったが、取り払って住宅地となった。要するに緑が守られていない。これは法律で規制するのは無理だと思う。ヒントになるのは、先日、第二京阪道路が開通したが門真のインターの近くの地主が乱開発を防ぐために、乱開発をするところには売らないという話し合いを始めたということを知っている。先程話が出てきた協働がこれから大事になってくると思う。それと安心・安全については机上の理論が優先している。水害の被害者の立場で言うと、水害や地震に強いまちをつくるというのは無理である。逃げるにこしたことはない。しかし最近津波で避難した状況をみると、散々たるものである。それと去年の兵庫県佐用町の災害をみても、避難指示、避難勧告のタイミング、あるいは避難場所、これが机上ではなしに、地域住民が危険な場所はここだということのを頭にたたき込んでおくことが大事だと感じた。豊岡市でも水害があったが、危ないところに立て札を立てている。私の経験でいうとバケツをひっくり返したような雨が一時間続いたら視界10m、そうすると車で移動はできない。話は変わるが、最近公示価格が表示されている。地価はその土地の魅力を写す鏡、まちづくりの成否が、まちの地価を左右させる。都市計画がうまくいく、いかないことによって生駒市民の財産が増えたり減ったりするため、非常に大事なことである。そういうことを市民に浸透させる必要があると思う。土地については、まずは活性化、人口

増加策を打ち出していくことが大事である。人口増加策、活性化についても入っていると思うが追加してほしい。協働については最近良い例が出てきている。生駒駅前商店街のびっくり通りが新聞の全国版で情報発信した。商店街の活性化である。シャッター通りは全国的にみても大問題である。びっくり通りが成功したのは、100円ショップではなく、100円で出来る品物を商店街で揃えたい。新聞の写真を見ると、通りが押すな押すな状態になっていた。中心となる人がなんとかしないとイケないということで動いて、私が知っているところでは大学生を呼んできて、活性化について勉強会をしていろいろ知恵をもらったりして、あの調子でいったらいろいろ知恵を絞ったのではないかと思う。そのほかでも活性化の例がある。それを協働にも使っていく必要がある。緑のまちづくりをリードする、フローラムという市の機関がある。そこで緑の関係者が2ヶ月に一度集まって井戸端会議をやっている。提案したいのは、行政がリードして、いろいろな協会や市民が集まれる井戸端会議を一月に一回開いてほしい。各地で成果が出ているようである。公共交通機関については、事業者以外に市が自前でバスを走らせているところもある。一番多いのは東京の武蔵野市である。ただ10年後を考えた場合にどういふ支出が増えるかという社会福祉関係である。大阪市は赤バスを止める。これに変わるものとして、デマンド交通、いわゆるタクシー会社に委託して予約制で時間を区切って路線を走らせるものである。料金は定額制にして不足は市が負担する。そういうやり方をやらないとイケない。バスの停留所は集落から300m以内につくれと今は言われるけど、あまり意見を聞きすぎるとしょうもなくなってくると思う。横浜の港北ニュータウンでは、開発する前に雑木林を残して開発している。そういうやり方をやっているところもある。また、10年後を考えた場合、再開発が入っていない。生駒駅の真ん前に高齢化が進み人口が減っているところがある。駅の近くは人口が増えないとイケない。これは再開発しか方法がないのではないかと思う。あと、希望だが資料を事前にいただけませんか。また、会議の内容について今朝言われてびっくりしたが、もう少し早めに分かっていたら有り難い。

部会長：たくさんのいろいろな意見有り難うございました。資料については事前に配布したいと思っているが、事前まで打ち合わせをして資料作成に時間がかかっている。できれば早めにお渡ししたいと思っている。最近ニュータウンに限らず全国的に空き家が増えているというのは、都市計画のなかでは大きな課題となっている。住み替えの意見も出たが、持続可能なまちの一つとして、自分たちの住んでいるまちのなかで住み替えができるという話もある。そうすると自分が好きなまちで、家族構成は変わってもずっと住んでいけるというのも一つの持続可能なまちづくりの観点のなかに入ってくると思う。うまくいくかは別として、住み替えということはキーワードに直接入れるということではなく、後の方で具体的にどうするかというところで検討いただきたいと思う。住み替えについては最近テレビ放映していたが、住み替え専門の業者が出てきたという話があった。その一方、古い住宅は耐震性に劣っていて、それが買っ

てからしかわからないということで問題だということである。それについては住宅の検査制度とかがあるが、生駒市は建築物の年代などのデータが揃っていないということだった。そういうところは重要であるので、安全・安心を含めて、住宅を含めたまちの情報というのをやるべきと思った。自然環境の話があったが、部会の前に見学に行ったときに、緑があちこちあったわけだが、だんだんなくなっているという話が確かにあって、それをどう残すかは難しい問題である。やはり都市計画マスタープランのなかで、緑を守ると言っているだけでなく、ではどんな方法があるかを次回以降ぐらいにご検討いただきたい。協働だが、100円商店街の話は私も読み非常に賑わっているということである。重要なのはそれをやろうという人材がいるということである。自治基本条例ができたという話があったが、自治基本条例はいろいろな分野を含めた条例なので、まちづくりに特化した人材というのをこの都市計画マスタープランに「育成します」と出しても良いのではないかと思う。

事務局：住宅ストックについては、都市資産として活用するのか、都市資産の上手な使い方のなかに住宅ストックを組み入れていくとか、どのように目標のなかにまとめていけるかということを考えている。協働については総合計画で打ち出しているのも、そういう形でいきたいと思っている。水害の話も土砂災害、水害マップを市民に配布して事前に減災対策を講じていくという方法もある。キーワード的に目標のなかに入れていきたい。今のご意見を整理してどれだけのキーワードで整理できるかと思っている。

部会長：今まで話しを伺ったなかで、キーワードを集約していく上で、公共交通とか、協働とか、持続可能なまちをどうするかとか、自然環境とかの話が出てきたと思うので、また、事務局の方でももう少し集約してまとめていただきたい。もう少しご意見がありましたらどうぞ。

委員：交流というのがあり、生駒市内の交流だけ書いてあるが、大阪を中心とした他市町との交流が大事だと思う。生駒市は地の利に恵まれていると思う。生駒山に府民の森やふれあいセンターがある。すばらしい施設であるが生駒市はもてあましている。例えば林のなかに研修施設があればすばらしいと思うが、今の施設にそれがある。こういう施設をどんどん情報発信して大阪の人に使ってもらったら良い。ふれあいセンターと府民の森をあわせた利用も考えられ、大阪府に負担してもらってバスを走らせて駐車場をつくったら良いと思う。都会からお客を呼ぶという記事があった。生駒市には私たちが気付かない宝の山が多い。例えば田舎の景観、農村とか里山風景とか、棚田とかが売り物になる。田んぼの活用とか、農地の放棄地を活用した貸し農園とか、修学旅行で農業体験学習とかをやっているところもある。とにかく大阪府や大阪市の広報に情報発信したら来たい人は来ると思う。生駒市の広報に大阪市のスポーツ団体のイベント記事が出ていた。そういう方法もある。それで昼間の人口を増やすということが大事である。昼間の人口を増やしたら、生駒って聞いたらこんな良いところか

と思う。もう一つは若者が集まってくるまちが大事だと思う。市役所に若い人がたくさんいる。そういう人をぜひ活かしてほしい。ブログとかメールマガジンとかで発信して、コミュニティビジネスとかを進めてほしい。奈良県の外郭団体からそういった案内状がきている。

部会長：情報発信の話があったが、それについても検討していただきたいと思う。デジタルコミュニティガバナンスということも出てきているので、そのなかでまちづくりがどう扱われているかということも、今後そういう話もしていければと思う。

委員：自治基本条例について、小学校区単位で協働のまちづくりということの話があったが、小学校区の役員は親が最も関わる人数の多い役員で、毎年総会は4月にある。その総会の場所に取り組んでおられる自治会の方が出向いて行かれて、どのようにして協働のまちづくりを進めているかということを紹介していただいたら、何も知らなかった人たちの耳に入る良い機会になる。これから自治委員に関わっていく方々が、“自分たちで出来ることは昔から自分たちでやってきた”というのが、生駒市の歴史のなかにあるということを知ったら、住民自治がそういう側面を持っているものだということが分かる。財政が厳しい市町村が多いなかで、住民でどういう自治を進めていくかということの心がけみたいなものは、昔から学ぶことがたくさんあるということを知らない人が多いので、こういうお話を聞かせていただく機会が大変有り難い。それから、そういうことを聞いて感動することによって、住民の意識というのもレベルアップしていけるのではないかと思う。

部会長：先程人材育成の話があったが、市民全体の啓発について入れないといけないと思うので、具体的な施策に入ったときには、忘れずに入れていただきたい。

委員：東連合会は安全・安心なまちづくりということで毎年125人ぐらいの新1年生全員に入学式の時に防犯ベルを渡している。地域で子どもを育てようとしてもなかなかうまくいかない。髪の毛を染めた中学生を注意したら、個性で染めていると母親からクレームがつく時代である。地域で子どもを育てようと地域ぐるみの会合で情報交換もしているが、やはり安全・安心が大事である。100円ショップも今まで儲けていたが、いずれ行き詰まる。イベントをやったときだけである。業態も変わってジャスコもなくなった。客が来ないからである。だからこの都市計画マスタープランで地域の各自治会が、一生懸命がんばって自治基本条例に則って、何かに取り組んでやっていって、その輪を広げていくことが大事だと思う。当然緑も大事である。そのなかに公園もある。公園も掃除をしない。たいがい荒れている。そういうことからやっていかないと。まず小さなコミュニティを積み上げていかないとだめだと思う。

部会長：まちづくりの分野では、一つは住民によるみんなで作る地区計画というのがあって、生駒市では盛んにつくられている。一つの形は自分たちのまちをどうしていくかを住民のみなさんも考えつつ、説明していく必要がある。

委員：この場所ではそうである。大まかな取り組みを提示しないといけないと思う。や

はり小さいことを積み上げていかないと。生駒市はこうあるべきだというのは作らないといけないと思う。

部会長：他にご意見はありませんか。大分時間も経ったので、今日の話を受けてキーワードからもう少しまとめた言葉を事務局で考えていただきたい。次回は将来像と具体的に生駒市全体をどうしていくかということを検討していきたい。そのなかで都市構造というのがあって、それを次回検討したいと考えている。都市構造について簡単に事務局から説明をお願いしたい。

事務局説明

部会長：ありがとうございました。何か質問があればお願いします。なければ、少し時間があるようなので、住民活動について説明していただければと思う。

事務局説明

部会長：ありがとうございました。次回一覧表か何かで詳しく説明していただければと思う。それでは、その他で何か連絡があれば。

事務局：本日の専門委員会で平成 21 年度の会議は終わりということになる。4 月下旬に策定委員会を開催したいと思っている。今の予定では 4 月 27 日を開催予定としている。次回の専門部会は 5 月の下旬に開催したいと思っている。

部会長：日程が決まったら、事務局から連絡をしていただきたいと思う。今日は貴重なご意見をいただき有り難うございました。それでは本日はこれで終わらせていただきます。

以上